

ティチューブ (T-Tube) <未滅菌> SP

再使用禁止

【警告】**

【使用方法】**

- 1) 気管切開術後に皮膚から気管へのルートが確立していない時には、再挿管が困難となる場合があるので注意すること。
- 2) 上気道の異常や分泌物の増加などによって気道閉塞のおそれがある場合には、栓を使用しないこと。[換気不全のおそれがあるため。]
- 3) B 部上部が閉塞しているタイプ（封栓型）の本品に栓を取りつけないこと。[換気不全のおそれがあるため。]

【禁忌・禁止】**

【使用方法】**

- 1) 再使用禁止
- 2) ヨード系の消毒薬の使用や、長時間の紫外線照射は避けること。[本品が劣化し、破損等のおそれがあるため。]

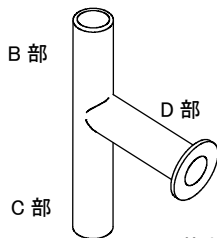
【併用医療機器】 [相互作用]の項参照**

- ・本品の使用部位付近に高濃度の酸素を流している場合にレーザーメスや電気メスを使用しないこと。[高濃度の酸素雰囲気中では突然発火したり、発火による熱傷のおそれがあるため。]

【形状・構造及び原理等】

【形状・構造】*

本品は、無色半透明でT字（Y字）形をしたシリコーンゴム製の気管切開チューブで D 部先端にフランジがついたもの、フレーム付きのもの、B 部上部が閉塞しているタイプ（封栓型）、径が変化するもの、C 部にベベル（角度）がついたものもある。栓が付属する場合がある。



基本型

製品番号	#3331SP
------	---------

【原理】

本品はT字型のチューブを気管切開口より挿入し、気管内に留置することにより気管の狭窄防止と同時に気道確保を行うものである。

【使用目的又は効果】

本品は、気管内に狭窄が起こった場合、狭窄防止と同時に気道確保を目的として、気管切開口から挿入して使う。

【使用方法等】**

【A. 滅菌】**

- 1) ラベル表示でサイズ等の確認を行う。
- 2) 本品は未滅菌品のため、包装から取り出し精製水で表面の埃を洗い流した後、以下に従い滅菌する。

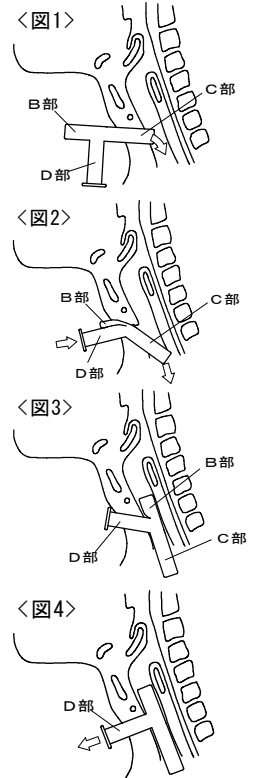
滅菌方法	オートクレーブ滅菌
滅菌条件	温度 121℃
	圧力 98kPa
	時間 20分以上

【B. 挿管するとき】**

- 1) 本品の B 部（上気道側）を鉗子等でつまんで、C 部（下気道側）側から気管切開口より気管内に挿管する。（図 1、2 参照）

【注意】

- ① ピンセットあるいは鉗子等で本品を傷つけないようにすること。[本品の特性上、傷等により破断しやすくなるため。]
- ② 潤滑剤を塗布する場合は過剰につけないようにすること。[本品が気道内に脱落しやすくなるため。]
- ③ 潤滑剤でチューブ内腔を閉塞しないこと。[気道を確保できないことがあるため。]
- 2) この時、本品の脱落を防ぐため、必ず B 部の鉗子をはずす前に D 部を別の鉗子等で把持する。（図 3 参照）
- 3) D 部を手前に引いて本品を適切な位置におさめる。（図 4 参照）
- 4) 患者の換気状態を確認する。



【C. 挿管しているあいだ】**

- 1) 患者の十分な管理と観察を行う。

【注意】

- ・カテーテル等を用いてチューブ内側を吸引する際には、本品が気道内に脱落しないよう、D 部を保持しながら注意して行うこと。[気道内への脱落により、窒息することがあるため。]
- 2) 付属の栓は発声及び上気道での呼吸の訓練をする場合等に取りつけて使用する。

【注意】

- ① 栓は、上気道からの呼吸が十分可能なことを確認してから使用すること。
- ② 栓は、あまり深く差し込まないこと。[栓を抜くことが難しくなるおそれがあるため。]

【D. 抜管するとき】**

抜管するときは、D 部を鉗子等でつまんでゆっくりと引き抜く。

【注意】

- ① ピンセットあるいは鉗子等で本品を傷つけないようにすること。[本品の特性上、傷等により破断しやすくなるため。]
- ② 肉芽が引っかかり本品が抜け難くなったり、出血したりするおそれがあるため、抜管の際はゆっくり慎重に引き抜くこと。
- ③ 予期せぬ再挿管に備えて予備の本品を近くに用意しておくことが望ましい。なお、詳細は、【使用方法等】【A. 滅菌】参照のこと。
- ④ 患者に異常がないことを観察すること。
- ⑤ 換気不全に対し、速やかに気道確保を行うために、気管挿管等の準備を整えておくこと。

【使用上の注意】**

【重要な基本的注意】**

- 1) フレーム付きの場合は、本品が抜けないう、綿テープ等を用いて適切に固定すること。[固定の緩みにより、チューブが気管から逸脱したり、チューブの位置がずれるおそれがあるため。]

- 2) 小児や意識障害患者、認知症患者等意思表示の困難な患者に使用する場合には、気道閉塞の発見が遅れるおそれがあるため、厳重に観察すること。
- 3) チューブ内側の分泌物の凝固を最小限にし、気管粘膜の損傷を防ぐため、患者の気道を適切に加湿すること。
- 4) チューブ内側に付着した分泌物等による閉塞を防ぐため、適宜、吸引を行うこと。
- 5) 吸引操作後に呼吸管理状態が適切であることを確認すること。
- 6) 患者の状態、局所の変化並びに本品の汚れ等の状態に応じて、新品と交換すること。
- 7) 分泌物の多い患者には、内筒を有する気管切開チューブ等を使用すること。[分泌物により本品内腔が閉塞し呼吸困難等に陥るため。]
- 8) 栓は、上気道からの呼吸ができない患者には使用しないこと。[呼吸困難をきたすおそれがあるため。]

【文献請求先】**

株式会社 高研 営業企画部
TEL 03-3816-3500

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

【製造販売元】**

株式会社 高研
TEL 03-3816-3500

【製造元】

株式会社 高研

【相互作用(他の医薬品・医療機器等との併用に関する事)】**

併用注意 (併用に注意すること)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
レーザー治療器 電気手術器	本品の使用部位付近に高濃度の酸素を流している場合は、本品の使用部位の近傍でレーザー治療器(レーザーメス)や電気手術器(電気メス)を原則として使用しないこと。	酸素中でレーザー治療器(レーザーメス)・電気手術器(電気メス)を使用すると、突然発火したり、発火による気道熱傷等のおそれや有毒ガス発生のおそれがある。

【不具合・有害事象】**

本品の使用中に次の事象が起こることがある。使用期間中は十分な観察を行い、このような場合には本品の使用を中止し、適切な処置を行うこと。

1) 重大な不具合

チューブの切断、潰れ、事故抜去、狭窄、詰まり、異所留置、挿管困難、脱落

2) その他の不具合

穴、キズ、亀裂、破損、異物混入、抜去不能、ねじれ、凹み

3) 重大な有害事象

肺炎、換気不全、呼吸不全、壊死、気道閉塞、誤嚥、気管支痙攣、気胸、気道狭窄、肺の過膨張、肺水腫、皮下気腫

4) その他の有害事象

発赤、炎症、感染、発熱、喉頭狭窄、誤嚥、呼吸困難、潰瘍、出血、損傷、咳、痛み、喘鳴、肉芽形成、瘢痕形成、びらん

【その他の注意】**

院外で本品を使用する際、医療従事者は本品の取扱者に必ず安全な使用方法と操作方法の説明を行うこと。

【保管方法及び有効期間等】**

【有効期間】**

3年 [自己認証(当社データ)による。]

【主要文献及び文献請求先】**

【主要文献】

- 1) 「気管カニューレ抜去困難症に対するシリコンTチューブの効用」竹田英子、長谷川 誠、渡辺建介、斉藤洋三、渡辺 勲
「耳鼻咽喉科」49(6)、1977
- 2) 「長期装着したシリコン製Tチューブの安定性について」末永通、川浪 貢、佐藤公輝、田中克彦 「日気食会報」39(6)、1988